

1st day

5.21 Sat.

第35回大会 特別報告

■時 間／16:30～17:00 ■会 場／2F 講堂

テーマ●現行施策で地方創生はできません
—国土の均衡発展:その原理と方法
-「消滅自治体」を救うのは、小中学校の地方分散事業である-

報告者 三浦清一郎

2nd day
5.22 Sun.

第35回大会 特別企画

■時 間／9:00～11:45 ■会 場／2F 講堂

第1部：9:00～10:10

「小中学校聴講制度」の先見性と未来性

—予算の要らない「生涯教育」、「世代間交流」、「教室の覚醒」、「高齢者の脳トレ」—

小中学校を中核とした市民の聴講制度は、愛知県で創設され、「少年」と「高齢者」を繋ぎ、合わせて、「教育」と「福祉」を繋ぐ教育行政を越えた政策課題です。認知症患者1千万人時代という大ピンチの現在、予算の要らない最も身近な「生涯教育」、「世代間交流」、「脳トレ」の機会でもあります。学校が理解し、社会教育が生涯学習者の掘り起こしを担当し、守秘義務を始めとした「聴講のルール」を確立した上であれば、子どもにも教員にも、「見られる効果」による緊張感と勉学態度のモデルを提供する「教室の覚醒」にも繋がります。当面は、どの自治体においても、個人を対象とした狭い生涯学習として細々と続けて来ました。しかし、この事業の本質は、学社連携・教福連携の未来の可能性にあり、「生涯教育・介護予防」プログラムであると発想して、行政のトップや創設者の教育長、実践に踏み切られた校長先生をお招きした次第です。

登壇者：愛知県扶桑町 元教育長（公社 全国公民館連合会理事）
福岡県古賀市 市長
山口県宇部市立上宇部小学校 校長

河村 共久
中村 隆象
増野 淳一

コーディネーター
生涯学習通信「風の便り」編集長

三浦清一郎

<【第1部】登壇者プロフィール>

●河村 共久 愛知県扶桑町 元教育長（公社 全国公民館連合会理事）

現在、（公社）全国公民館連合会東海・北陸ブロック代表理事。平成12年、愛知県扶桑町教育長時代、「いかに開かれた学校作りをするか」を考え、平成14年度から町民の方々が、小中学校の子どもたちと同じ教室で授業を受ける「町民聴講生制度」を創設した。全国に先駆けた扶桑町の「町民聴講制度」は、その後各地のモデルとなり、現在も進行中である。

●中村 隆象 福岡県古賀市 市長

東京大学経済学部卒業後、新日本製鐵（株）に入社し、平成10年に退社する。平成10年福岡県古賀市 市長に初当選以来、現在4期目を務める。平成18年度後期より古賀市立小・中学校で「聴講制度」を導入し、授業及び行事などの教育活動の場を広く市民に生涯学習の場として提供し、合わせて「高齢者外出促進運動」を展開し、高齢者の健康寿命を注視している。

●増野 淳一 山口県宇部市上宇部小学校 校長

平成27年、母校である上宇部小学校に校長として赴任する。地域とともにあるコミュニティ・スクール構想に取り組み、組織的な学校運営を進め、保護者や地域の願いを実現できる学校づくりを行っている。上宇部公民館と上宇部小学校の「学社連携」企画を実現し、学校から「地域への恩返し」発想で、学校を挙げて地域の方々の「授業参加」を実施している。

●三浦清一郎 生涯学習通信「風の便り」編集長

国立社会教育研修所、文部省、福岡教育大学、シラキューズ大学、九州女子大学などを経て、現在月刊生涯学習通信「風の便り」編集長。晩年は執筆に集中し、近著に、「明日の学童保育」（日本地域社会研究所）、「国際結婚の社会学」（同）、「詩歌自分史のすすめ」（同）、「消滅自治体は都会の子が救う」（同）、「隠居文化と戦え」（同）などがある。